

## アイ(i)・チイキ(chiiki)・ツナグ(tsunagu)

## 目的

- 遠隔授業を行うことにより、中山間地域や半島の先端に位置する高等学校の生徒の多様なニーズの全てに対応した指導体制を整え、生徒の主体的な学びを支援する。
- 地域連携コンソーシアムの構築により、地域社会における課題や魅力の発見・課題解決など探究的な学びを実現する。
- 本研究を通して、中山間地域や半島の先端に位置する高等学校の魅力化を図る。

## 現状

●構成校6校は、いずれも中山間地域や半島の先端に位置する高等学校で、入学の募集定員は全て80人以下という小規模の高等学校である。これらの高等学校は、域内のさまざまな生徒層を受け入れ、大学進学から就職までの多様な進路希望に応じた教育・支援を行うという役割が期待される。しかし、学級数や生徒数が少なくなっており、校内の教育資源にも限りがあるため、これまで行ってきた進路希望に応じた科目開設や習熟度別指導の実施など生徒の多様なニーズの全てに対応した指導体制を単独で確保することが困難となってきている。

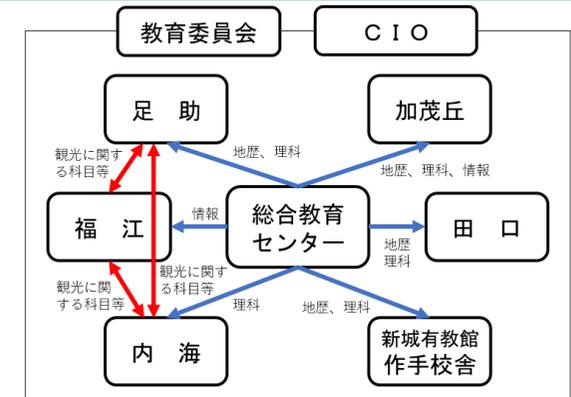
●地域連携の取組は、それぞれの高等学校で進んでいるが、教育課程外のイベント的な取組が多く、教育課程に組み込まれた教育活動とはなっていない。

●地域社会との連携・協働によって当該地域ならではの組織的・計画的な探究的な学びを実現するとともに、遠隔授業の実施や、複数の高等学校が教育課程の共通化・相互互換を図り、さまざまな教育資源を共用することによって、小規模高等学校単独ではなし得ない特色・魅力ある教育に取り組む必要がある。

## 1. 遠隔事業に関する取組の概要

## 総合教育センターを配信元とする遠隔授業、構成校同士を結んだ遠隔授業を行う。

- 総合教育センターを配信元とする遠隔授業について  
生徒のニーズに応じた選択科目の開設及び免許外教科担任制度の利用解消等を目的に、地歴、理科、情報等の遠隔授業を行う。
- 構成校同士を結んだ遠隔授業について  
内海高等学校、足助高等学校、福江高等学校において、観光に関する科目等の遠隔授業を行う。



## 2. 地元自治体等の関係機関と連携・協働する体制の構築に関する取組の概要

地域連携コンソーシアムを構築する各構成校では、現在までにさまざまな地域連携の取組を行っている。地域連携の取組を教育課程に取り入れることにより、生徒にどのような力が身に付いたかなどを検証する。

高等学校名	構 想
愛知県立内海高等学校	観光に関する地域、構成校との連携
愛知県立加茂丘高等学校	地域の再開発計画に関する地域との連携
愛知県立足助高等学校	観光に関する地域、構成校との連携
愛知県立福江高等学校	福祉、観光に関する地域、構成校との連携
愛知県立新城有教館高等学校作手校舎	地域の環境（農業）に関する地域との連携
愛知県立田口高等学校	地域の環境（林業）に関する地域との連携

## 3. 今年度の成果と今後の課題

## ○遠隔授業

- ・遠隔授業を通年にわたり安定的に運用することができた。  
→実施科目の拡大と学校間における授業配信の検討
- ・理科の実験授業等、実施が困難な遠隔授業を実現できた。  
→生徒1人1台端末の活用による実験・実習等の拡充
- ・講師の安定的な確保のための制度の構築  
→持続可能な遠隔授業の実施に向けた教員配置の画策

## ○地域連携コンソーシアム

- ・地域との協働により、実践的で探究的な学びを実現できた。  
→人的、物的な支援の拡充と遠隔授業とのコラボレーション
- ・中学校との連携により、個別的で系統的な学びが充実した。  
→中高連携協議会の継続と入試を踏まえた制度体制の構築
- ・特性の似た構成校のコンソーシアムをつなげることができた。  
→「総合的な探究の時間」等を核とした交流授業の拡充